

令和5年度 全日本中学校道徳教育研究会役員・理事会（第3回）

# 道徳科指導の更なる充実を目指して

国立教育政策研究所  
教育課程調査官 井上結香子  
(併任) 文部科学省教科調査官

## I はじめに

## 内 容

- I はじめに
- II 道徳科の授業の充実に向けて
- III 道徳教育の要としての道徳科
- IV おわりに

### I はじめに

中央教育審議会

**「令和の日本型学校教育」の構築を目指して**

～全ての子供たちの可能性を引き出す、  
**個別最適な学びと、協働的な学びの実現**～（答申）

令和3年1月26日  
（以下、「令和3年答申」）

急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

- 社会の在り方が劇的に変わる「**Society5.0時代**」の到来
- 新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「**予測困難な時代**」（令和3年答申）

急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

- 社会の在り方が劇的に変わる「**Society5.0時代**」の到来
- 新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「**予測困難な時代**」 (令和3年答申)

学習指導要領の  
着実な実施

ICTの活用

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、**持続可能な社会の創り手となる**ことができるようにすることが必要 (令和3年答申)

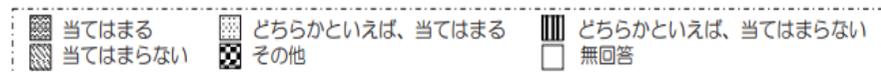
II 道徳科の授業の充実に向けて

道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、**よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習**を通して、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。**

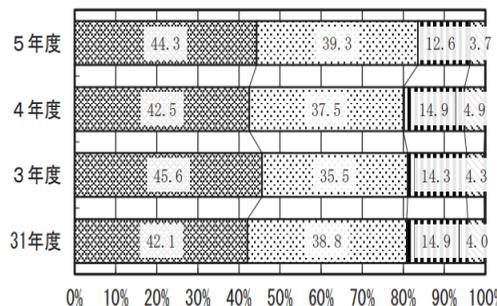
道徳科の目標の中に示された**学習活動**に着目

II 道徳科の授業の充実に向けて

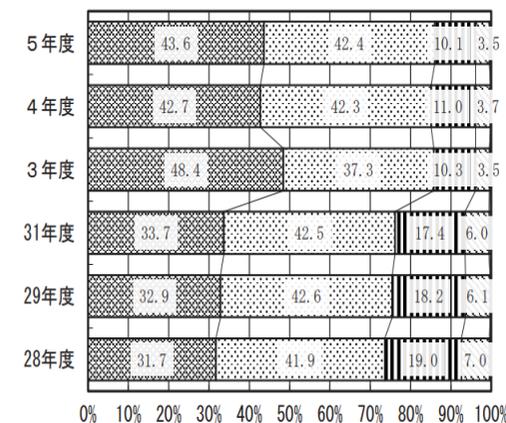


	質問番号	前回の比較	最大9回前との比較	質問事項
小	42	→	→	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか
中	46	→	↗	

【小学校】



【中学校】



教育再生実行会議の提言や中央教育審議会の答申を踏まえ、学習指導要領の一部を改正し、「道徳の時間」(小・中学校で週1時間)を「**特別の教科 道徳**」(「**道徳科**」)(引き続き週1時間)として**新たに位置付ける**(平成27年3月27日)。平成30年4月から小学校にて全面实施(中学校は31年度から)

### 【特別の教科】

道徳は、**学級担任が担当**することが望ましいと考えられること、**数値などによる評価はなじまない**と考えられることなど、各教科にない側面があるため、「特別の教科」という新たな枠組みを設け、位置付ける。

### 具体的なポイント

- ☑ 道徳科に**検定教科書を導入**
- ☑ 内容について、**いじめの問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なもの**に改善  
「個性の伸長」「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際親善」「よりよく生きる喜び」の内容項目を小学校に追加
- ☑ **問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れ、指導方法を工夫**
- ☑ 数値評価ではなく、**児童生徒の道徳性に係る成長の様子**を認め、励ます評価(記述式)  
指導要録の様式例は示すが、内申書には記載せず、入学者選抜に使用しない

※私立小・中学校はこれまでどおり、「道徳科」に代えて「宗教」を行うことが可能

**「答えが一つではない課題に子供たちが道徳的に向き合い、考え、議論する」道徳教育への転換により児童生徒の道徳性を育む。**

## II 道徳科の授業の充実に向けて

調査結果 (小・中学校)

【設問6】「道徳科」の授業を実施する上での課題は何ですか。(複数回答可)



調査結果 (小・中学校)

【設問6】「道徳科」の授業を実施する上での課題は何ですか。(複数回答可)



## III 道徳科の授業の充実に向けて

深い学びにつながる指導方法の例示

- ・ **読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習**  
教材の登場人物の判断と心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し、道徳的価値の理解を深めること
- ・ **問題解決的な学習**  
児童生徒の考えの根拠を問う発問や、問題場面を自分に当てはめて考えてみることを促す発問などを通じて、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせること
- ・ **道徳的行為に関する体験的な学習**  
疑似体験的な活動(役割演技など)を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解することで、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うこと

## 道徳科における質の高い多様な指導方法

これらは多様な指導方法の一例であり、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではない。

道徳科における具体的な学習プロセスは限りなく存在し得るもの

## 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』

### 2 道徳的諸価値についての理解を基にする

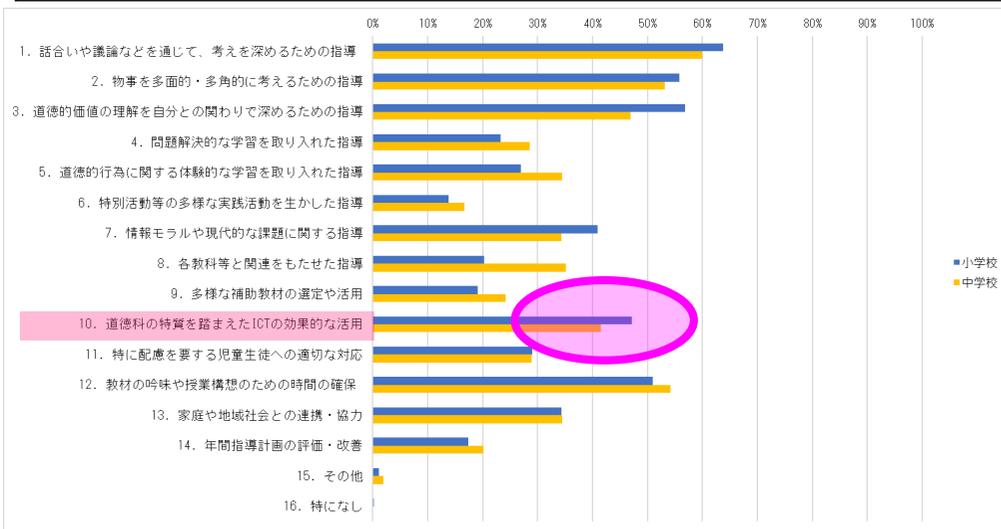
思春期にかかる**中学生の発達段階**においては、**ふだんの生活においては分かっていると信じて疑わない様々な道徳的価値**について、**学校や家庭、地域社会における様々な体験**、道徳科における**教材との出会いやそれに基づく他者との対話などを手掛かりとして自己との関わりを問い直すこと**によって、**そこから本当の理解が始まるのである**。また、時には複数の道徳的価値が対立する場面にも直面する。その際、生徒は、時と場合、場所などに応じて、複数の道徳的価値の中から、どの価値を優先するのかの判断を迫られることになる。その際の心の葛藤や揺れ、また選択した結果などから、道徳的諸価値への理解が始まることもある。このようなことを通して、道徳的諸価値が人間としてのよさを表すものであることに気付き、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に根ざした自己理解や他者理解、人間理解、自然理解へとつながっていくようにすることが求められる。

（『中学校学習指導要領解説 道徳編』第2章第2節2 道徳的価値についての理解を基にする p.14-15）

## II 道徳科の授業の充実に向けて

調査結果（小・中学校）

【設問6】「道徳科」の授業を実施する上での課題は何ですか。（複数回答可）



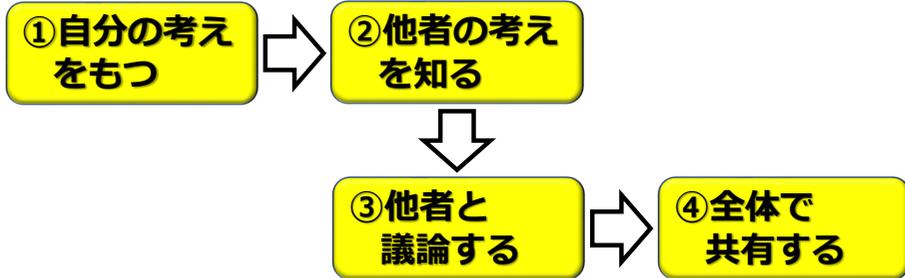
## II 道徳科の授業の充実に向けて～道徳科の特質を踏まえたICTの効果的な活用～

### ➤道徳科の学習指導過程とICTの活用

段階	学習の目的	主な学習活動	ICTの活用例
導入	・実態や問題を知る。	・道徳的価値について、問題意識をもつ。	・実態や問題の提示
展開	・教材を活用して、道徳的価値を理解し、よりよい生き方を考える。	・ <b>多面的・多角的に考える。</b> ・自分自身との関わりで考える。 ・自己の（人間としての）生き方についての考えを深める。	・教材の提示 ・ <b>自分の考えをもつ</b> ・ <b>他者の考えを知る</b> ・ <b>話し合う(対話)</b> ・ <b>自己を見つめる</b>
終末	・よりよい生き方の実現への思いや願いを深める。	・道徳的価値についての自己実現への意欲を高める。	・生活の様子の提示 ・外部の方の言葉の提示

展開・多面的・多角的に考える

「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、**自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える。**



もっと考えたいこと

自分と関連すると思ったこと

考えや思いが広がったこと

自分の中で考えたことを色分けしてみよう。

- もっと考えたいこと・疑問に思ったこと
- 自分と関連すると思ったこと
- 考えや思いが広がったこと

児童（生徒）の**学習状況**や道徳性に係る成長の様子を**継続的に把握**し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

・評価に当たっては、特に、学習活動において児童が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、下記のような点を重視することが重要であり、ICTの効果的な活用が子供たちの学習活動を促すことにもなる。

**一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか**  
**道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか**  
 ・道徳科では、子供たちの学習状況について**大きくなまとまりを踏まえた評価**が求められる。

・**年間や学期という一定の期間**を経て評価するためにICTを活用することが、子供たちが自己を深く見つめることや教師の負担軽減にもつながる。

道徳科の評価のための活用例

**継続的な授業によって子供の学習状況を見取り、子供がいかにか成長したかを積極的に認め、励ます個人内評価を行う。**

- ・毎時間の授業記録を**端末に保存**していく。
- ・子供が**学びを振り返り**、成長の様子を実感する。
- ・教師が子供の**学びを見取り**、**評価に生かす**。



自分の考えを端末に保存する



学びの記録を端末に蓄積する



蓄積された記録をもとに評価する

ICTを活用した振り返りの例

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	いい	いい	いい	いい	いい	いい	かならず書こう 印象に残った授業とその理由	かならず書こう あなたの学び方について（以下の視点は例です） ・内容の理解の仕方 ・他の人の考えの聞き方、捉え方 ・自分の問題としての捉え方、考え方 ・生き方へのつなげ方	できるだけ書こう !? Question !?（生き方）について考えたこと	書ける人は書こう その他 友だちのこういうところがよかった ローテーションとか授業の方法とか先生方にメッセージなど
2	授業日付	教材教材名	内容項目	ふりかえり						
3	1日付	0タイトル	テーマ	1						
4	2日付	0タイトル	テーマ	2						
5	3日付	0タイトル	テーマ	3						
6	4日付	0タイトル	テーマ	4						
7	5日付	0タイトル	テーマ	5						
8	6日付	0タイトル	テーマ	6						
9	7日付	0タイトル	テーマ	7						
10	8日付	0タイトル	テーマ	8						
11	9日付	0タイトル	テーマ	9						
12	10日付	0タイトル	テーマ	10						
13	11日付	0タイトル	テーマ	11						
14	12日付	0タイトル	テーマ	12						
15	13日付	0タイトル	テーマ	13						
16	14日付	0タイトル	テーマ	14						
17	15日付	0タイトル	テーマ	15						
18	16日付	0タイトル	テーマ	16						
19	17日付	0タイトル	テーマ	17						
20	18日付	0タイトル	テーマ	18						
21	19日付	0タイトル	テーマ	19						
22	20日付	0タイトル	テーマ	20						
23	21日付	0タイトル	テーマ	21						
24	22日付	0タイトル	テーマ	22						
25	23日付	0タイトル	テーマ	23						
26	24日付	0タイトル	テーマ	24						

## 道徳科のICT活用の留意点

**目的** は、**道徳性**を養うこと。

そのための**手段** が、**ICT活用**の工夫。

**手段** であるはずの**ICT活用**の工夫が、

授業の**目的** になると・・・、

**教師主体** の「活動あって学びなし」の授業になる。

**子供主体**

## III 道徳教育の要としての道徳科



文部科学省では、「特別の教科 道徳」の趣旨や理念の実現を図るため、「考え、議論する道徳」の授業づくりの参考となる映像資料等を提供し、学校の出組を全力で支援します。

### 道徳教育について

- ▶ 「道徳教育アーカイブ」について
- ▶ 道徳教育を知るための資料
- ▶ 文部科学省作成教材
- ▶ 実践事例
- ▶ 授業映像
- ▶ 工夫事例(指導案)

### Pick Up

- 令和3年3月31日 授業映像に小学校(2事例)の動画を追加しました。
- 令和2年4月21日 授業映像に小学校(2事例)、中学校(1事例)の動画を追加しました。
- 授業映像に中学校の動画(2事例)を追加しました。
- 研修用資料に「平成29年度 道徳教育指導書養成研修ブロック説明会 行政説明資料「道徳教育の抜本的充実」
- 文部科学省作成教材に「小学校道徳 読み物資料集」と「中学校道徳 読み物資料集」を追加しました。
- 平成28年11月18日付で、文部科学大臣より以下のメッセージを発信いたしました。  
いじめに正面から向き合う「考え、議論する道徳」への転換に向けて(文部科学大臣メッセージ)について
- 平成29年4月11日付で、文部科学大臣より以下のメッセージを発信いたしました。  
道徳教育の充実に向けて(文部科学大臣メッセージ)について



## III 道徳教育の要としての道徳科

自校の道徳科が  
**道徳教育の要**  
になっていますか？



## 各教科等で行う道徳教育

- ・ 断片的 → つなげる
- ・ 表面的 → 深める
- ・ 一過性 → 繰り返す
- ・ 見ているが見えていない  
→ 見える化, 共有化

### (2) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての道徳科

児童は、学校の諸活動の中で多様な道徳的価値について感じたり考えたりするが、各教科等においてもその特質があるために、その全てについて考える機会があるとは限らない。また、生徒は、各教科等においてそれぞれの特質に応じて道徳性を養うための学習を行うが、各教科等の指導には各教科等に特有のねらいがあることから、その中では道徳的価値の意味などについて必ずしもじっくりと考え、深めることができているとは限らない。それらの指導の中に含まれる道徳教育が、道徳性を養うためにはとかく断片的であったり徹底を欠いたりするのは避けられないことでもある。

## Ⅳ おわりに

『小学校解説 特別の教科 道徳編』(p.22)  
『中学校解説 特別の教科 道徳編』(p.19)

### (1) 内容の捉え方

学習指導要領第3章の「第2 内容」は、**教師と生徒が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合い、その実行に努めるための共通の課題**である。学校の教育活動全体の中で、様々な場や機会を捉え、多様な方法によって進められる学習を通して、生徒自らが調和的な道徳性を養うためのものである。それらは、教育活動全体を通じて行われる道徳教育の要としての道徳科はもとより、全教育活動において、指導されなければならない。

『小学校解説 道徳編』(p.106)『中学校解説 道徳編』(p.108)

道徳科の学習は、「**人生いかに生きるべきか**」という生き方の問いを考えると**言い換えることができ**、道徳科の指導においては、児童のよりよく生きようとする願いに応えるために、**児童と教師が共に考え、共に探求していく**ことが前提となる。

『中学校解説 道徳編』(p.78)

### (6) 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する

また、教師は自らの個性を十分に生かして指導に当たることが望ましい。なぜなら、**教師の人間味ある指導の下でこそ、生徒が充実感をもって語り合い、考え、議論するような指導が展開**できるからである。その際、**教師は生徒と共に考え、悩み、感動を共有していくという姿勢**で授業に臨み、**生徒が自ら課題に取り組み、考え、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことができるように配慮することが必要**である。

共に考え、議論していきましょう。

令和5年度 全日本中学校道徳教育研究会役員・理事会(第3回)

道徳科指導の更なる充実を目指して